




平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

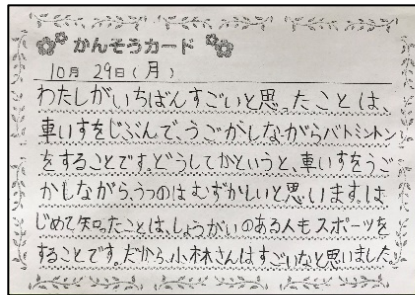
- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

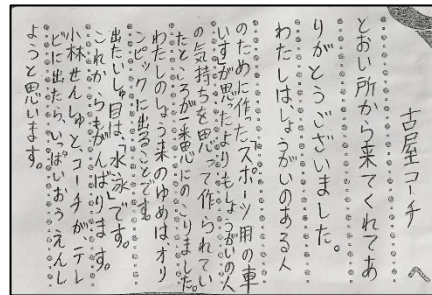
1 実践テーマ	【 III・IV・V 】
2 実施対象者	築上町立築城小学校 1年生 51名 2年生 51名 3年生 63名 4年生 58名 5年生 56名 6年生 53名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 道徳 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( )
4 目標 (ねらい)	東京オリンピック出場を目指す選手と日本代表コーチのバトミントンの実演や講話を通して、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、障がいのあるなしや国の文化の相違に関わらず、夢に向かって挑戦し続けるすばらしさに気づく。
5 取組内容	<p>【事前学習】</p> <p>東京オリンピックに関心をもつとともに、障がい者バトミントンや小林選手や古屋コーチについて知る。</p> <p>(1) ワークシートの問題をといたり、DVD を視聴したりして、オリンピック・パラリンピックについての関心をもつことができるようにする。</p> <p>(オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料)</p> <p>(2) ホームページやこれまでの記事から、講演に来られるお二人や障がい者バトミントンについての興味・関心を高める。</p> <p>【オリンピック・パラリンピック教育講演会】</p> <p>演題「夢に向かって挑戦」障がいのあるなし、国や文化を超えて</p> <p>講師 日本障がい者バトミントン連盟 古屋 貴啓 コーチ</p> <p>古屋コーチの実演や講話から、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めるとともに、障がいのあるなしや国の文化の相違に関わらず、夢に向かって挑戦し続けるすばらしさに気づく。</p> <p>○障がい者バトミントンについての講話</p> <p>○バトミントンの実演</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
	【競技用車いすの説明】      【参加型の講話の様子】      【児童とのバトミントン実演】

【事後学習】

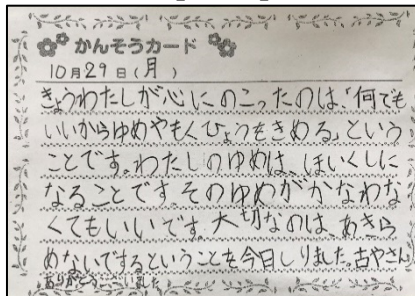
教育講演会で学んだ事柄をカードに書いてふり返る。



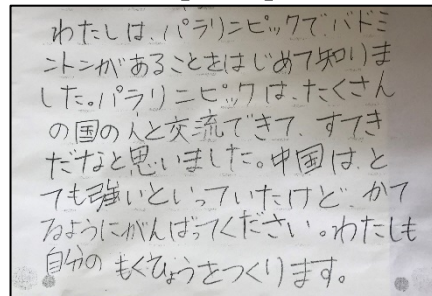
【感想1】



【感想2】



【感想3】



【感想4】

【道徳科の授業】

5年生「ペルーは泣いている」国際理解・国際親善

外国のことを知る時はお互いの国の文化や習慣を理解していくとよいことに気付き、外国のことをもっと知り、交流を深めていこうという心情を育てる。



ワークシートの内容(抜粋)

- 他の国の文化を知りたい。また、自分たちの文化を教えられるようにいろいろな事を学んでいきたい。
- 僕が外国に行ったときその国の文化や歌など詳しく知りたいです。でも、知るだけでなく日本の言葉や歌など様々なことを伝え、お互いに理解し合う認め合う心を忘れないでいたい。

<p>6 主な成果</p>	<p>•教育講演会を通して、児童に多くの気付きが生まれた。事後学習の感想1からは、障がい者スポーツへの理解、感想2からは夢を持つすばらしさやオリパラ選手への関心の高まり、感想3からは諦めない心をもつ大切さへの気付き、感想4からはスポーツがつくる他国の人々との交流のよさへの気付きが見とれた。</p>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>•教育講演会を中心として、事前学習、事後学習、道徳科を関連させて学習を設定した。オリンピック・パラリンピック教育を軸とすることで、道徳科での学びをより深めることができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>•教育講演会と道徳科を関連させた学習を設定した。教育講演会での学びを道徳科の学びに生かすためには、事前学習のワークシートの内容や事後学習のふり返りカードの内容をさらに検討していく必要がある。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>•次年度以降も道徳科のオリンピック・パラリンピック教材と関連させた学習を行う予定である。 •教育講演会の実施はできないが、DVDや本事業に係る様々な読本や教材、資料等を再度検討して、道徳科授業の事前事後で活用する予定である。</p>